

## 市長記者会見記録

日時：2022年12月22日（木）14時00分～14時19分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：川崎市市制100周年PRポスターを作成しました（総務企画局）  
市政一般

### <内容>

#### 《川崎市市制100周年PRポスターを作成しました》

【司会】 ただいまから市長記者会見を始めます。本日の議題は、「川崎市市制100周年PRポスターを作成しました」となっております。それでは、福田市長から本議題について御説明いたします。市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 それでは、川崎市市政100周年PRポスターについて御説明をさせていただきます。この度、令和6年7月1日に迎える市制100周年について、市民の皆様にご存知いただき、機運を高めることを目的に、PRポスター8種を作成いたしました。

PRポスターは、7区区内で撮影された古い白黒写真等を用いた、見た方に各区の昔を知ってもらい、地域への興味を喚起する作りとしております。また、市制100周年記念事業「Colors, Future! Actions」のステートメントポスターも作成し、市制100周年を通して、川崎市を知って、関わって、好きになって、私たちと一緒にみんな「あたらしい川崎」をつくっていきましょうという市民の皆様へのメッセージをお伝えしています。

川崎の多様性あふれるこれら全8種のポスターについては、多くの方に見ていただけるよう、市制100周年記念事業・全国都市緑化かわさきフェア実行委員会委員にも掲示協力を依頼しながら、本市関連施設のほか、市内の鉄道路線各駅や民間施設など市内全域で掲出してまいります。市民の皆様一人一人に、自らの住む地域の歩みや息吹を身近に感じ取っていただき、みんなが主役となって市制100周年を迎えられるよう、機運を高めてまいります。

私からの説明は以上です。

【司会】 ありがとうございます。それでは、ただいま御説明いたしました議題に関する質疑応答に入ります。なお、市政一般に関する質疑につきましては、議題に関する質疑を終了後、引き続きお受けいたします。それでは、進行につきましては、幹

事社各社様、よろしく申し上げます。

【東京(幹事社)】 幹事社の東京新聞です。よろしく申し上げます。私個人としては、新婚時代を過ごした麻生区の百合ヶ丘団地の写真が使われていて、とてもいいポスターだなと思っているんですけども、市長として、この8枚のポスターのここがいいなというお気に入りポイントみたいなのところをお聞かせいただけますでしょうか。

【市長】 私も、どの写真にしようかってみんなで議論したうちのメンバーの一人だったんですけども、やっぱり各区の特徴がよく出ているのかなと思います。もちろん昔から市内に住んでいる人たちにとってみれば、懐かしい写真もあるでしょうし、あるいは本当に今日から市民になった方も、あっ、この地域って、多摩川、こんなだったんだとかという、あるいは、今言っていたいただきましたように、百合ヶ丘の団地って、その当時、すごく一世を風靡したところでもありますし、川崎の様々な面があって今日があるんだということを多くの人に知ってもらいたいなと思っています。どれもものすごくいい写真なんじゃ……、写真と、それとやっぱり僕、今回、そこに触れられているメッセージがすごくいいなと、どれも感じています。

【東京(幹事社)】 ありがとうございます。

【共同(幹事社)】 共同通信です。ポスター、昔というところがキーワードなんだろうなと存じますけれども、100周年以降、これからに向けてというよりも、やはり昔ということをお聞かせください。

【市長】 先ほどもちょっと申し上げましたけれども、川崎を知って、関わってもらって好きになるというプロセスを踏んでいきたいんですけども、まず、川崎のことを改めて知ってもらうという、再発見してもらうというためにも、この地域がどんな地域で過去あったのかと。この100周年事業は、100年の歴史を振り返りながら、関わってくださった人たちに感謝する側面もあるしということから、少しターゲットを昔のところに持っていったというのを、新しい時代を、新しい川崎をみんなで作って出していこうという前に、少しノスタルジックですけども、昔の川崎を知ってもらおうという、そういう趣旨でございます。

【共同(幹事社)】 ありがとうございます。

各社さん、どうぞ。

【司会】 ほかに御質問いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、議題に関する関係者はこちらで退席させていただきます。

## 《市政一般》

【司会】 それでは、引き続きまして、市政一般に関する質疑をお受けいたします。進行につきまして、幹事社各社の皆様、改めてよろしくお願い致します。

#### 《今年の漢字について》

【東京（幹事社）】 それでは、引き続きよろしくお願い致します。今日が年内最後の会見になるかと思うんですけども、この1年間を漢字一文字で表すのだったら、どういう字になるかということをお願いいたします。

【市長】 ありがとうございます。ちょっと出すのが恥ずかしいんですけども、こんな感じで「再」と。

【東京（幹事社）】 この字を選ばれた理由というか……。

【市長】 これはですね……。

【東京（幹事社）】 すいません。後ほど写真撮影の時間をつくっていただいてもよろしいですか。

【市長】 はい、すいません。

【東京（幹事社）】 ついたて越しになってしまうものですから。

【市長】 そうですね。今年は「3年ぶり」という言葉を僕も何百回使ったか分かりませんが、コロナ禍であってもいろいろなものが再び動き出したという印象を受けておりますのと、それから、今年は脱炭素戦略室も設置いたしまして、再生可能エネルギーの戦略を推進してきたこともあります。それから、脱プラというか、この取組を進めている中で、プラスチックの資源の再利用に取り組み始めたということもありますので、いろんな「再」があるなと思って、この字にさせていただきました。

#### 《Twitter一年振り返りについて》

【東京（幹事社）】 あと、今、選んでいただいた「再」の字からは少し外れてしまうかもしれないんですけども、今日午前中に川崎市の10大ニュース、ツイッター投票で選ばれたものが発表になりまして、その中で1番に選ばれたのが、ワールドカップで川崎勢が活躍したということが投票が多かったということなんですけれども、この件についての市長の受け止めはどのようにお感じになりましたか。

【市長】 1位が、いわゆる鷲沼兄弟大活躍ということで、それから2位がブレイブサンダース、藤井裕真さんのMVPとか、3位が川崎フロンターレ、惜しくも2位と、そして、ワールドカップ日本代表に2選手選出という、この3つが、トップスリーがいずれもスポーツ関連ということで、川崎のスポーツがいかに国内的にも、あるいは世界に向けて躍動しているかという非常に象徴的な出来事が今年はずごく多かったなと思っています。

【東京（幹事社）】 ありがとうございます。

#### 《統一地方選挙について》

【共同（幹事社）】 共同通信です。来年、統一地方選挙がございます。県知事選も行われる予定で、県内もだんだん慌ただしくなってきた様相ではございますけれども、市長、特別自治市構想を引っ張っていらっしゃるしまして、今回、県知事選ではあるんですけども、どういう論戦を期待されますでしょうか。

【市長】 県知事選もあるし県議会議員選挙もあるので、市議選はもちろんのことですが、やはり私ども、いろんな政策、事業を展開していく上で、そのベースとなる自治の在り方、形が大きく問われなければならないと思っていますし、ぜひ候補者にはそれは問うてほしいなと思います。

それから、やはり県議選、非常に重要で、川崎市内選出の県議会議員がどういうスタンスで特別市を感じておられるのかというのは、当然有権者の皆さん、関心あると思いますし、そこはしっかり注視していきたいなと思っています。

【共同（幹事社）】 ありがとうございます。

各社さん、お願いいたします。

#### 《国の政策に対する地方自治体の対応について》

【時事】 時事通信です。地方自治という意味で、市長にお伺いするのは若干筋違いなんですけれども、10月、12月と追加補正があって、僅かの中に、委員会、本会議となって、これは国の政策もありますけれども、国の政策も、地方自治、議会に対してあまり配慮がないなと私は個人的には思っているんですけども、市長はどうですか。もうちょっと丁寧に、時間をかければ丁寧というわけでもないけれども、本当にこれでいいのかという……。

【市長】 そうですね。とにかくこの3年間ぐらい、国の政策による事務量の多さは半端じゃないと。今おっしゃったような追加補正のような話が多くて、いつまでにとというのが非常に多いので、コロナ禍の対応をしながら事務的な負荷が非常に高かったので、現場感とすれば、本当に市町村がやる事務が非常に多いので、そこにはものすごい負荷がかかったと思っています。

かつ、これまでも申し上げてきたとおり、年度内までに執行しなければならないというような話があって、年度内ぎりぎりになってから、いや、それは年度内に執行しなくてもよろしいみたいな話に転換されるとかというのは、執行する立場からすると非常に困ると思います。

さらに言えば、より自由度の高い形で、地域の実情に応じているのかって、いろん

なことに書いてあるんですけども、実は地域の実情にあまり応じられないような、裁量の幅があまりなかったりということがあるので、これは本当に国全体の話として考えていただかなくちゃいけないと思いますが、1点、コロナ禍で機動的に対応しなくちゃいけないというのはよく分かりますけれども、自治体事務をやっているのもそうですし、市民の皆さんからも、やはり、いろんな給付金だとかが散発的に出ていくというのに、給付してもらってありがたいという声と、それから、全体としてどうなったのかというのは、やや分かりにくさはあったんじゃないかなとは思いますが。そういう意味で、これからどこまで給付的なものは今後あるかどうか分かりませんが、非常に戦略的に、これから政策を考えていただきたいなとは思っています。

【時事】 ちょっと関連しますけれども、給付金でいろいろ新たに始めた事業もあって、ただ、いいなと思うような事業も次年度以降、もっと先まであるかということ、それはちょっと不透明というのもあって、やったはいいけどやりっ放しみたいになるおそれがある事業もあるのかなと思うんですけども、その辺はどうでしょうか。

【市長】 やはり今回、昨日の補正予算で通ったものもそうですけれども、非常にいい形だなとは思っています。妊娠から出産した後までこういう形で応援できるというのはいいんですが、これが今後ということになりますと、また、自治体負担だとか、やっていくこと自体は、いわゆる、しっかりと相談、伴走支援していくという形で、今まで妊娠届出のところと、それから出産した後というところの間の8か月のところで、伴走支援していくという方向性は、新たなものにつながっていくという意味では非常に意味のあることだと思います。そういったところを丁寧にやりながら、財源の問題というのは今後もいろんな課題があるのかなとは思っています。

全体として僕も一瞥で見たわけではありませんけれども、単発であったのが、やはり何を残して、国のお金でやるのか、自治体負担でやるのかというのは非常に気になります。特にうちは不交付状態なので、しっかりとした財政措置がされるのかされないのかというのは、市民の皆さんからすれば、不交付だからこうだとかという話はあまり伝わらない話なので、その辺の辺りの難しさはあるなと思います。なかなか自由度が効かないですよ、本当に。

#### 《出産・子育て応援事業について》

【t v k】 t v kです。今の出産・子育て応援給付金なんですけれども、現金での支給とされた、その思いってどういったものなんですか。

【市長】 それはやっぱりスピード感を持ってやるのがすごく大事だと思ったので、かつ自由度も高いというのがあります。デメリットとしては、本当に子育てのところ

に全部使われるのかという懸念はありますけれども、しかし、自由度が高くスピード感を持ってやれるという意味では、現金給付が給付される側にとっても非常にいいんじゃないかなという思いで、そうさせていただきます。

【t v k】 ありがとうございます。

【司会】 ほかに御質問いかがでしょうか。

#### 《二十歳を祝うつどいについて》

【読売】 読売です。成人式が1月9日ですかね。今回、交通規制及び危険物、酒類の規制をやると。初めてらしいですけど、今年の出来事を受けて、そういうのを取らしいんですが、市長さんのメッセージ的なことでもありましたら、若者向けに。

【市長】 全体を通しては非常に落ち着いたあれだと思えますけれども、本当に限られたごく一部の方が飲酒をしたりとか、あるいは暴走行為のようなことをやることによってこういうことになってしまうんだということをぜひ理解をしてもらいたいと思います。みんなが楽しめる環境、大人に、大人にというか、二十歳というのをみんなで祝うときに、そういう無責任な行動は厳に慎んでもらいたいと思います。今回、警察からの指導も非常に厳しいものがあつたと聞いていますので、しっかり体制を組んでやりたいと思っております。

【読売】 ありがとうございます。

【読売】 読売新聞です。今の成人式に関連してなんですけれども、今年4月に改正されて、18歳以上が成人ということで、自治体によっては祝いのタイミングを引き下げるところもあると思うんですけれども、今回、普通に20歳でという引き下げないところの理由と伺いますか、そういうところがもしあつたら。

【市長】 全国で引き下げて、18歳で成人式をやるところって、恐らく本当にごく少数だと思うんですけれども、理由は私たち、多分みんな一緒だと思うんですが、ちょうど大学受験の頃にかぶってくるというタイミングと、私たちもアンケートだとか含めて、いろんな若者の意見を聞きましたけれども、18歳よりもやっぱり二十歳でお祝いしたいという当事者の声がすごく強いということもありました。そういった意味では、大体ここがコンセンサスなんじゃないかなと思っています。私どもの役所の都合というよりも、まさに当事者の皆さんの声がこういう形になったんだと思います。

【読売】 ありがとうございます。ちなみに、当事者の声って、大学受験とかぶるとかもあると思うんですけれども、20歳の区切りがいいと伺いますか、飲酒とかその辺は20歳ですとか、どうして当事者の声として、20歳というのがあつたんですか。

【市長】 それこそアンケートなどをしたときに、二十歳がいいというのは、やっぱり皆さんの意識としてもそうなんじゃないかなと。18歳成人ということにはなったけれども、飲酒とか含めて二十歳からなので、そこでお祝いしたいとかというのは、現時点ではまだそういう状況なんじゃないかなと思います。

【読売】 ありがとうございます。

【司会】 御質問はよろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして定例市長記者会見を終了いたします。今年もありがとうございました。

(以上)

---

・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355